

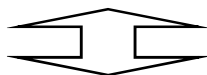
# 令和5年度 学校努力点と推進に向けて(案)

## 名古屋市学校教育の努力目標 『ともに学び 自分らしく生きる』

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようになるため、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

### 【令和5年度重点事項】

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
  - ・ I C Tを効果的に活用し、指導の個別化・学習の個性化と多様な他者との学び合いを一体的に進める子ども中心の学びの実践
  - ・ 子どもが互いにに関わり合い、支え合い、認め合うことを基盤とした学級作り
  - ・ 実生活に生きてはたらき、各教科の基本となることばのちからの育成
- 自他の良さに気づき、自分らしく生きることがのできる子どもの育成
  - ・ 自他の命を大切に、自他の存在を尊重する態度を育てる教育の推進
  - ・ 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけるためのキャリア教育の充実
  - ・ 「なごや子ども応援委員会」との協働や、関係機関と連携した支援体制の充実
  - ・ 生涯を通じてすすんで運動に親しむための指導の充実



## 1 本校の努力点目標

「自分の人生を 仲間とともに、  
主体的に歩む ことができる生徒の育成」

## 2 努力点目標について

### (1) 本校の実態

昨年度の学校自己評価アンケートの結果では、「学校生活全般」において、約70%の生徒が満足、約20%がほぼ満足と答えている。

しかし、「学習面」においては、「授業に向けて予習や復習をしている」に対して「あてはまる」と答えた生徒は約20%、「学ぶことが楽しかったりもっと学びたいという気持ちをもてたりしている」に対して「あてはまる」と答えた生徒は約28%であった。

また、「生活面」では「みんなが快適に過ごせるように、自分からできることがあったらしようと思っている」に対して「あてはまる」と答えた生徒は約41%である。

学校自己評価アンケートの結果からも分かるように、本校の多くの生徒は楽しく思い出に残る学校生活を送ることができている。全体的にも自己肯定感とより良い学校生活の意識は高まりつつある。そこで本年度は、自他の存在を尊重する態度や今何をすべきか自ら明確にする力を引き出したい。他者と協調できる「豊かな人間性」と主体的に取り組むことができる「生きる力」を高めていきたいと考える。

(2) 「仲間とともに」の重点事項・具体化

○ 全ての活動の基本となる仲間を大切に、一人ひとりの個性や存在を認め・尊重し合い、協同・協働の精神で学校生活に取り組む。

上記について、学習に限らず全ての場面で教育実践を進めていく。

グループワーク、ペア学習など、仲間とともに学び合う活動を通して、課題に対して興味・関心をもたせ高めさせることなどを行う。そして、様々なグループワークなどの経験や体験をしていく中で、仲間とともに作りあげた、やり遂げたといった成功体験を味わわせる。場合によっては失敗経験から修正、改善していくことで、次の成功体験へとつなげ、仲間とともに高め合っていく。これらを繰り返していくことで、多面的・多角的な視点で物事を捉えさせ、様々な価値観を認め合うことができるようになり、他者と協調しながら歩んでいくことができる「豊かな人間性」を身に付けることに発展していくと考える。

(3) 「主体的に歩む」の重点事項・具体化

○ 明確な目標をもち自らの課題解決に向け、積極的に、粘り強く、工夫しながら取り組む。自ら学び、自ら考え、自ら判断して学校生活に取り組む。

上記について、学習に限らず全ての場面で教育実践を進めていく。

ここでいう「主体的に」とは、たくさん挙手をすることやノートいっぱい自分の考えを書くことを指すのではなく、自分や自分を含めた集団を見つめ直し、今後良くなるように「積極的に」「粘り強く」「工夫して」取り組んでいくことを指す。PDCAサイクルを生徒自身が回す学習を繰り返していくことで、自分の人生を主体的に歩んでいくことができる「生きる力」を備えていくことに発展していくと考える。

3 各場面での主な実践内容 等

場面	実践内容	ポイントやキーワード
学習	基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それを活用することで学びの意欲を高める。さらに問題解決能力を高める。	ICT機器の活用、TTや少人数指導、小テストや課題、表現活動、発表、討論、実践的・体験的活動、授業規律の確立、基礎・基本の定着、学びのつながり、・思いや願いの表現
特別活動 行事 等	創り出す喜びや表現する楽しさ、美しいものや自然に感動する心など、豊かな感性を育てる。よりよいものを創る、認め合う感性を育てる。	ICT機器の活用、創造的な活動、企画・運営力、協力・助け合い、喜び・感動・感謝などの認め合い、自ら考え実行する力、よりよい活動の創出、共に喜び・感動する感性
道徳・ 総合 等	思いやりの心、自律心や公共心、社会での役割、郷土愛など、道徳性を育てる。体験的な活動の充実を図る。	ICT機器の活用、思いやる心(いじめをなくす)、感じ・考える活動、正しい判断と行動、責任と自負、人を思いやり・認め合う心、望ましい人間関係、社会や公共での役割
生活 等	望ましい生活習慣を身に付け、みなぎ健康・安全で活力のある生活を送られるようにする。基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚を図る。	集団生活におけるきまりの遵守、元気なあいさつ、安全と健康、委員会活動との連携、望ましい生活習慣の確立、安心・安全な生活、・教育相談

4 今後の進め方

- ・ 努力点の内容を踏まえて、努力点推進委員会を中心に、全職員協力体制のもとで進める。
- ・ 全職員が各取り組みの中から、一実践を計画・中間報告・まとめと紙面にまとめて報告し、実践研究を進める。(実践する時期や場面は問わない)
- ・ 現職教育の中で、検討会を行う。指導や支援の方法を研究するとともに、指導と評価の一体化と学びの連続性を図る。